

事業の基礎情報

| | |
|----------|---|
| 実施主体 | 株式会社 能勢・豊能まちづくり |
| 事業実施地域 | 能勢町および周辺自治体（豊能町、川西市、猪名川町） |
| 共創の類型 | 官民共創 ・ 交通事業者間共創 ・ 他分野共創 |
| 他分野共創の類型 | 教育・スポーツ・文化 ・ 観光・まちづくり |
| 共創パートナー | 株式会社能勢・豊能まちづくり、阪急バス株式会社、日の丸ハイヤー株式会社、能勢電鉄株式会社、大阪府立豊中高等学校能勢分校、能勢町、能勢町観光協会 |
| 運行形態 | レンタルモビリティ（E-bike、電動キックボード、EVトゥクトゥク等） |
| 運行主体 | 株式会社能勢・豊能まちづくり、能勢町 |

取組の概要

（現状の地域課題と事業目的）

能勢町には鉄道駅がなく、路線バスも経営難から減便を余儀なくされている。最寄りの駅から町内へのアクセス方法が自家用車に限定されつつある中で、とりわけ地域の観光業への影響や高校への通学課題といった地域の内外の移動・交流手段の途絶に対する懸念が増している。こうした状況を踏まえ、昨年度、人材育成事業としてこうした交通課題を解決するための事業モデル構築を行った。本年度はこれをさらに深掘し、共創型事業モデル創出に向けた具体的な事業モデルについて、ステークホルダーとの調整を含めて実証を行う。

（事業の概要）

【通学事業】高校生およびその父兄のニーズを十分に把握した上で、拠点となる路線バス停留所および駅周辺に待合いスペースおよびE-bike置き場の拠点整備を目指す。また、小中学校スクールバスや民間通勤バスの乗合の可能性について、関係者と協議を進め、期間を区切ったテスト走行（実証）を実施し、実際に利用した上での利用者の声を集めてフィードバックする。【観光事業】能勢町東部エリアの観光交通拠点を電動パーソナルモビリティレンタルスペースと想定し、乗合タクシーと連携した最寄り駅から拠点への移動手段確保を目指す。また、乗合タクシーとレンタルパーソナルモビリティ、および周辺観光スポットをつなぐためのアプリ開発を行う。

事業の全体像・共創の仕組み

【通学】



運行主体

能勢町

小中学校スクールバスの
空き時間等を活用した共用運行



実施主体

能勢豊能まちづくり

交通機関や地域の関係団体との
連絡・調整/交通拠点整備

阪急バス

E-bike利用のための情報連携

能勢分校

通学課題のニーズ把握・意見集約
(父兄、関連団体含む)

【観光】



運行主体

能勢豊能まちづくり

レンタルパーソナルモビリティ事業
アプリ開発

観光協会・観光事業者

観光事業者のとりまとめ、
意見集約

日の丸ハイヤー

観光アプリと配車の連携、
イベントバスの運転手の手配

取組の詳細

(地域の関係者との連携・協働)

生徒数の確保に苦しむ地域の公立高校にとって通学手段の確保は死活問題であり、単独では解決できない。小中学校スクールバスや地域事業者の通学バスの活用や、路線バスと連携したE-bike利用のための拠点整備など、多様な主体と連携することで、地域の学校を守り、地域からの人口流出を防ぐ。観光事業者と交通事業者が連携することによって、観光地の魅力増大と公共交通需要の喚起の相乗効果が期待できる。また、1度の来訪で複数の観光拠点を周遊可能とする電動モビリティのレンタルサービスが組み合わせることで、観光事業者間の連携がより一層強化され、地域魅力化と稼ぐ力の強化に繋がる。

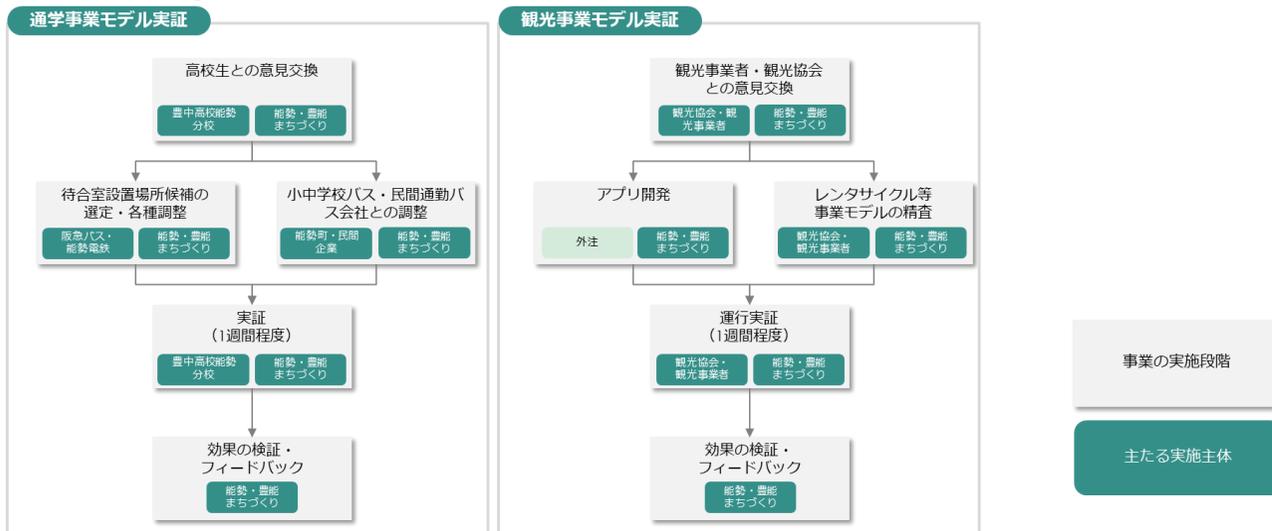
(実証事業により見込まれる効果)

通学手段の改善により、高校の魅力が増すとともに、高校生および父兄の送迎負担が軽減される。1度の来訪で複数の観光拠点を周遊する観光客が増加し、地域全体の稼ぐ力が向上する。自動車への依存度が低下し、温室効果ガス排出削減に繋がる。

取組の詳細

(事業実施手順・スケジュール)

実施手順



スケジュール

| 補助事業年度のスケジュール | 項目 | 時期 | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|----|----|---|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | | |
| ■ 補助金交付申請 | | ← | → | | | | | | | | | | | | |
| ■ 実証設計・関係主体との調整 | | | ← | ----- | ----- | ----- | ----- | ----- | ----- | ----- | ----- | ----- | ----- | | |
| ■ アプリ開発 | | | | | ← | ----- | ----- | ----- | ----- | ----- | ----- | ----- | ----- | | |
| ■ 実証運行 | | | | | | | | | | ← | ----- | ----- | ----- | | |
| ■ 効果の検証・フィードバック | | | | | | | | | | | ← | ----- | ----- | | |
| ■ 実績報告 | | | | | | | | | | | | | ← | ----- | ----- |

(補助事業実施後の予定)

通学事業は当該事業単体での収益化が難しいため、高校生や住民の声を踏まえて、協賛企業を集め、継続的な運営を模索していく。観光事業に関しては、アプリや各種モビリティを通じて各観光施設に訪れた観光客数に応じて、課金するモデルによって経済性を担保することを想定する。ただし、いずれの事業も現時点での想定であり、本実証後の効果の検証・フィードバック結果を踏まえて事業構想をブラッシュアップし、地域主体と共創しつつ、事業化を目指す。